

検討内容

【東北地方太平洋沖地震への初期対応について】

検討結果

義援金300,000円(会員数約1500名×200円)を日本作業療法士協会の義援金窓口に送金する

議事録

1. 県士会としての初期対応として、一刻でも早い対応を取る必要があるのではないかとの意見があった
⇒意見はもともとであり、必要性を感じる為、三役にて初期対応を検討する
2. 義援金を送る方法がこれまでも取られてきているが、どの窓口を利用するのが良いか
⇒、阪神大震災、中越沖地震の際にも、県士会からは、被災地区県士会宛の義援金を送付していた。
- 3-1. 被災地区県士会宛の義援金は、どのように送ることができるか
⇒OT協会が現在、義援金窓口を設立している。用途を確認してみようか
- 3-2. OT協会の義援金の流れについて(協会事務局員より聴取)
⇒現在、3月25日にボランティア派遣について関係団体との調整会議を予定しており、26日からは2名のOTがボランティアとして派遣されることが決定している。このような際のボランティア派遣費や、必要物品の購入費、被災地区県士会への復興支援金として活用します。(協会事務局員談)
- 3-3. OT協会の義援金窓口利用について
⇒承認。
⇒県士会費は、県士会の運営のために集められた費用である為、被災県士会の復興や、被災地で活動するOTを支援する費用として活用するのが望ましいのではないかと。被災者個人への支援についても、もちろん必要性は感じているため、今後の検討課題とする。
4. 義援金の額をどの様に決定するか
⇒北海道士会では、一人100円×2回を予定していた。愛知県士会としても、同様に200円で、初期対応としては良いのではないかと。今後の支援については、理事会にて決定する事が望ましい。
5. 協議結果をどう取り扱うか
⇒理事会メンバーリストに協議内容を公開し、各理事、部長、委員長より異論が無ければ週明けにも振込みを実施する。また、決定次第HPIに支援内容をアップする。